

今週の為替相場見通し(2020年3月30日)

総括表	注	先週の値動き		今週の予想レンジ
		レンジ	終値	
米ドル	(円)	107.75 ~ 111.71	107.99	104.00 ~ 109.00
ユーロ (1ユーロ=)	(ドル) (円)	1.0636 ~ 1.1148 117.77 ~ 121.14	1.1138 120.31	1.0950 ~ 1.1200 119.00 ~ 121.00
英ポンド (1英ポンド=)	(ドル) (円)	1.1445 ~ 1.2484 * 127.36 ~ 134.77	1.2446 134.34	1.2300 ~ 1.3000 132.00 ~ 139.00
豪ドル (1豪ドル=)	(ドル) (円)	0.5699 ~ 0.6200 * 62.93 ~ 67.71	0.6169 66.54	0.5900 ~ 0.6300 62.00 ~ 68.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 谷舗 直弥

(1)今週の予想レンジ: 104.00 ~ 109.00 円

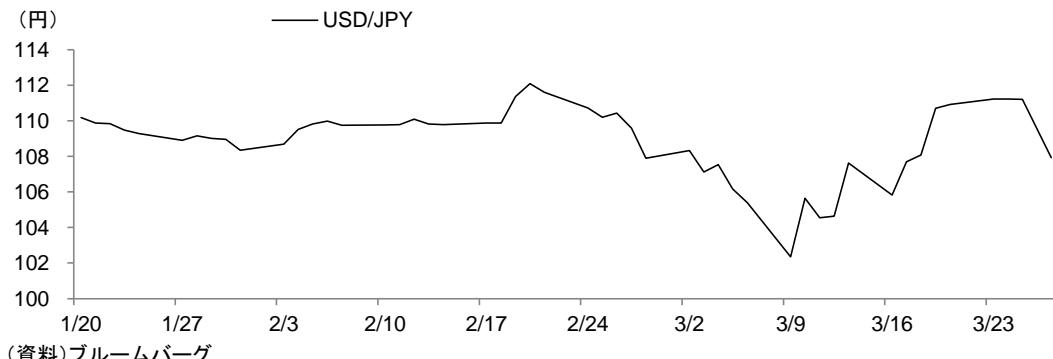
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半に安値をつける展開。週初23日に110円台前半でオープンしたドル/円は、ここ最近のドル買いが行き過ぎとの見方か、109円台後半まで下落した。その後、FRBが米国債と不動産担保証券(MBS)を無制限・無期限で購入することを発表すると、再びドル買いと共に111円台前半まで反発した。24日は、110円台前半まで下落するも、政府系ファンドが外債比率を引き上げるとの報道に110円台後半まで上昇。更に米議会での景気対策が早期に可決されるとの期待から、株式市場が大幅に上昇する展開に、ドル/円は111円台半ばまで上昇した。25日は、前日の反動から小幅に下落したものの、円売りに下値をサポートされ111円台での推移が続いた。26日は、安全資産としてのドル買い意欲が後退したことや、本邦勢のレバトリの動きも意識されるなかで軟調に推移し、109円台半ばまで下落した。更に、米国時間に発表された新規失業保険申請件数が過去最多となったことも嫌気され、109円台前半まで下落した。27日は、年度末に向けた本邦勢のレバトリ、日本国内での感染拡大懸念から円買いが優勢となり、108円台前半まで下落。その後も株式市場が軟調推移を続けるなかドル売りが継続し、一時週安値となる107.75円まで下落し、107.99円で越週した。

今週のドル/円相場は、円高が進行すると予想する。今般のコロナショックでは、リスク資産の価格が暴落するなかでドルが独歩高となった。これは、資産の価格下落を受けたマージンコール(追加証拠金)の積み増しや、銀行勢による期末の手元流動性を確保する動き(バーゼル3の流動性規制に対応するもの)により、ドルキャッシュへの需要が異常に高まったことが背景にあると考えている。今週については、足元でリスク資産の価格が反発していること、週内に3月末をパスすることから、ドル需要の逼迫が緩みドル/円は下落すると考える。コロナショック以前とは金融環境が大きく異なるため、ドル/円のコアレンジを予想するのは難しい。ただし、日米金利差が1%を切る水準にあることを考えれば、下方向への調整余地は相応にありそうだ。重要指標の発表は、1日(水)に日銀短観、米3月ISM製造業景気指数、2日(木)に米2月貿易収支、3日(金)に米3月ISM非製造業景気指数、米3月雇用統計が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/23~3/27)の値動き: 安値 107.75 円 高値 111.71 円 終値 107.99 円



2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 松本 奈保輝

(1)今週の予想レンジ: 1.0950 ~ 1.1200 119.00 ~ 121.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルはユーロ高の展開となった。週初23日は1.0690付近で取引を開始したユーロ/ドルは海外市場にFedが米国債とMBSを無制限で終了の期間なく購入することを発表するとドル売りが強まり、1.08台に乗せる場面はあったがその後はドルが買い戻される動きに1.07台前半付近まで下落。24日は金融資産の換金売りによるドル調達圧力に一服感が出てきたとの見方もあってかユーロ高の展開。ただし1.08台後半をつけるとユーロ買いの流れは一服。1.07台後半に下落。25日は流動性確保のためのドル買い後退が意識されるなかユーロ底堅い動き。1.09目前まで上昇した。その後は1.07台に下落する場面はあったものの、1.08台を中心とした値動き。26日はイタリアやスペインで新型コロナウイルスの感染拡大が再度懸念されるもドル売りが継続し、一時1.1060まで上昇。27日は軟調な欧州株式の動きにユーロ円の売りが強まり、ユーロドルも連れて下落し、海外市場で1.09台半ばまで下落するが、その後ドル売りが一層強まったことから、週高値の1.1148をつけ、1.11台前半で越週した。

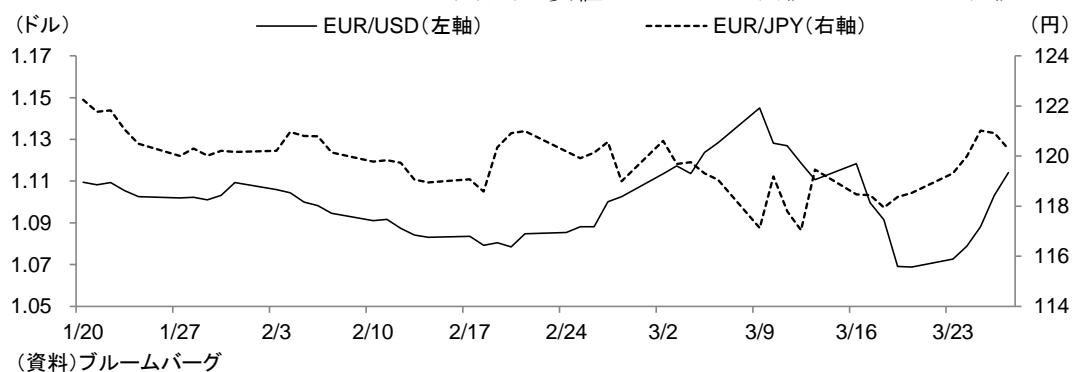
今週のユーロ相場は底堅い展開を予想。今月に入り、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた流動性確保や、3月末の資金供給不安から基軸通貨であるドルを調達する動きが続いていたが、FRBが米国債などの買い入れ量を当面無制限とする緊急措置を決めるなどドル資金の目詰まり解消や資金繰り支援により資金流動性が戻ってくることが意識され、足元ドル売りユーロ買い地合となっており、今週もドル調達一服によるユーロ高地合が継続すると予想。また今週は3日(金)の米3月雇用統計をはじめとして、数多くの米経済指標が発表される。市場予想比悪化し米経済の弱さに焦点が当たればユーロ買いに勢いがつきそうだ。ただしユーロ固有の材料としてはECBによる金融緩和や欧洲全域での新型コロナウイルス感染拡大を受け、欧州の景況感悪化も意識されているため、一方的なユーロの上昇とはならず、直近高値圏では上昇の勢いは緩やかになると予想する。重要指標としては1日(水)ユーロ圏3月製造業PMI(確報)、3日(金)ユーロ圏サービス業PMI(確報)の発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/23~3/27)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0636 高値 1.1148 終値 1.1138

(対円) 安値 117.77 高値 121.14 終値 120.31



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1)今週の予想レンジ: 1.2300 ~ 1.3000 132.00 ~ 139.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、上昇。対ドルでの上昇幅は7.1%(20日終値→27日終値)と予想外に大幅となつたが、その概ねはドル安の結果と考えられた(ドル指数(ICE)はこの間、4.3%(同)下落)。ただ、ドル指数の下落幅を(対ドルでの)ポンドの上昇幅が明確に上回った点や、並行して、対円(+4.2%)や対ユーロ(+1.2%)でもポンドは明確に水準を切り上げていたことから、ドル安の反映以上に、なんらかの理由でポンドが買い上げられていたのは疑いようのない事実だった。そのポンド高の理由だが、残念ながら、わからなかった。この間発表された経済指標などは、25日の英2月CPIが前年比+1.7%と予想通り、26日の同小売売上高は市場予想を明確に下回ったものの、新型コロナウイルス蔓延が経済活動に深刻な打撃を与える前の数字に、市場の関心は払われなかつた。26日の英中銀金融政策委員会は、2度の基準金利緊急利下げ、資産購入限度額の2,000億ポンド引き上げの直後で、それぞれの据え置きは市場全体の予想通りの結果と言え、やはり関心は集めなかつた。経済指標では、26日に発表された週次(3月21日週)の米失業保険申請件数が3,283件と一緒に10倍以上に急増したことが、或いはその後のドル安に弾みをつけた可能性が考えられたぐらいか。コロナ対策の財政出動に関しては、米上下院が引き続き2兆ドル規模の財政支援策の協議を続ける一方、独が7,500億ユーロの財政支援を導入した(23日)ことが目を引いたが、それが金融市场に与えた影響も明確には読み取れなかつた。スナク英財務相は、9日、自営業者向けの追加財政支援策を発表したものの、英政府によるコロナ対策財政支援策は3月11日の予算発表以来、既に第4弾、総額655億ポンドを数え、新たに90億ポンドが上乗せされたことに対する市場の反応は冷淡ではないにしても、乏しかつた。

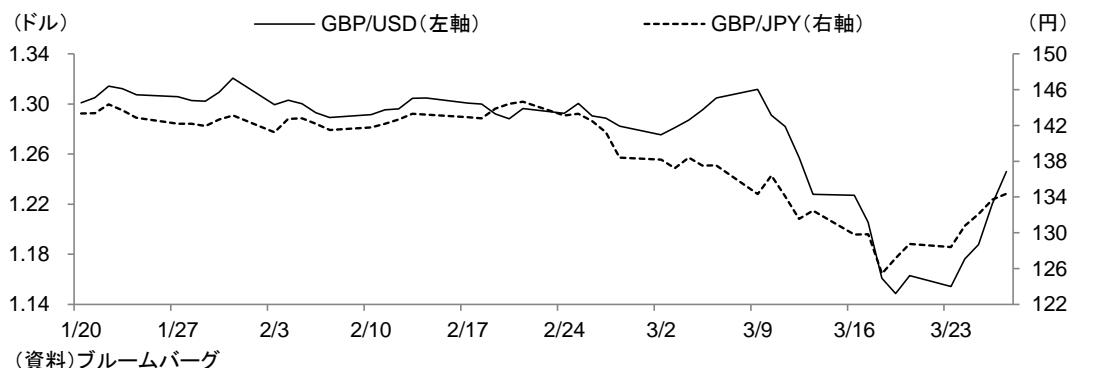
今週の英ポンド相場は、もう一段の上昇を予想。上述の通り、この間のポンド高の要因は判然としなかつた。新型コロナウイルスの蔓延が、2月以前の経済指標をほぼ無意味にしてしまつたのと並行して、主要国/経済も新興国も競うように金融緩和と財政出動の大盤振る舞いを打ち出す現状で、それぞれの政策が通貨間の相対的な優劣を決めるのにどのような影響を及ぼすものか、市場の思惑の一致を見るのは難しい。ポンドのもう一段の上昇を予想する理由は、ただひとつ、3月以降のポンド/ドルの値動きに、2月央以降のドル/円の値動きの相似形を見るというテクニカルな符合でしかない。ドル/円相場が4週間で見事なV字回復を描いた経緯を、万が一、ポンド/ドル相場が踏襲するとしたら、今週中に、ポンド/ドルが1.30を回復するような値動きもあり得る。2月末からの円急騰には、「リスク回避の円買い」という言い訳があり、3月9日に前後して始まった円急反落とポンド急落には、「ドル流動性確保」という共通の言い訳が用意された。現在までに詳らかでない足下ポンド急反発にも、いずれ、もっともらしい言い訳が付け加えられる可能性は十分考えられる。或いは、それは、新型コロナウイルス騒動の「織り込み」の一巡ということになるのかもしれない(騒動そのものの一巡ではない)。そういう目線で、24日、東京オリンピック延期が確定したことの意味は大きい。オリンピック延期は、少なくとも、オリンピック開催の可否を判断すべきぎりぎりの期限(例えば6月末)までにこの騒動が収まるこに対する期待を、「世界」が断念したことを見徴する。つまり、向こう3か月前後の間に足下混乱が収束する可能性はないとの諦観が共有された=市場に織り込まれたことを意味するはずで、取りも直さず、それは、必要なドル流動性の確保が一巡した可能性をも示唆するはずだ。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/23~3/27)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1445 高値 1.2484 終値 1.2446

(対円) 安値 127.36 高値 134.77 終値 134.34



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1)今週の予想レンジ: 0.5900 ~ 0.6300 62.00 ~ 68.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

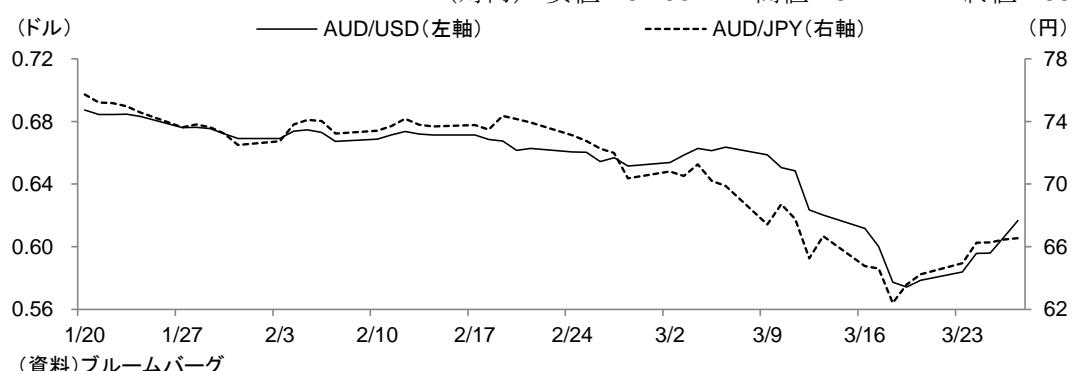
先週の豪ドルは大きく反発。23日、0.58台前半でオープンした豪ドルは、豪10年債が下落する動きもあり、週安値である0.5699を付ける展開となった。0.57付近での固さが確認された事に加えて、NY時間にはFRBが国債とMBS(政府機関系モーゲージ債)を必要なだけ購入すると発表。米ドルが売られる展開となり、豪ドルも一時0.58台半ばまで上伸。24日は豪連邦政府による景気刺激策への期待から、豪株が12年12月以来の安値から反発するする展開に豪ドルも0.59台に連れ高となる。米政府による約2兆ドルの景気刺激策案を受けてドル買いが強まると豪ドルは0.59台を割れる場面も見られたが、翌25日、米政府が景気対策で野党民主党と合意したとの報道から、投機筋による豪ドル買いから一時0.60台半ばまで上昇。26日には、一旦調整から0.58台まで下落する展開も「米上院が2兆ドルの景気対策法案を可決」との報道にドル売りが強まり0.60台後半まで上伸。26日も、引き続き米ドル売りが継続し、豪ドルは一時週高値である0.6200まで上昇した。

今週の豪ドルは0.60台前半での方向感の乏しい展開を予想する。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた各国政府・中銀の施策に注目が集まる中で、豪ドルはとりわけ米国の政策運営に大きく振らされる展開となった。その中で、FRBの流動性供給、米政府の2兆ドルに上る景気刺激策の可決を受けて市場の安心感が醸成されると、3月初から大きく下落していた豪ドルは5営業日連続で陽線を連ねる展開となった。米ドルのひつ迫懸念が一旦は落ち着く中で、豪ドルの2番底懸念はさほど大きくないとは思っている。しかし、世界経済の減速懸念が引き続き燐り、自動車メーカーなどが生産を中止するなどの報道が見られるなど、資源価格が反発する道筋が見通せない中に於いては積極的に豪ドルを保有する向きが出てくるとも思えない。先週にかけて上昇した豪ドルではあるが、今週は0.6台前半付近で落ち着きどころを探る展開になるのではないか。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/23~3/27)の値動き: (対ドル) 安値 0.5699 高値 0.6200 終値 0.6169

(対円) 安値 62.93 高値 67.71 終値 66.54



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。